

「立春」を過ぎ、暦の上では春を迎えましたが、厳しい寒さが続いています。本校では、1月中旬にインフルエンザが流行し始め、これまで1クラスが学級閉鎖しました。現在も各学年数名の児童がインフルエンザに感染しています。まだまだ寒い日や乾燥した日が続くことが予想されます。ご家庭でも予防及び健康管理をよろしく願います。

長なわとび大会 「限界を目指して 信じる仲間と心をひとつに」

寒い冬場こそ、体力作り

一年の内で最も寒さの厳しい1月～2月に、運動委員会が、体力の向上と健康の保持増進、そして、みんなで運動することの楽しさを味わってほしいという願いで、長なわとび大会を計画し、取り組みました。

3学期に入って、毎日休憩時間には自主的に運動場に出て、長縄跳びの練習に励んでいる姿が見られました。各クラスでめあてを設定し、励まし合い助け合いながら、一生懸命に練習に励んでいました。他のクラスや学年と競い合うことで、大会に向けて子どもたちの意欲もぐんぐん高まっていました。練習を通して、クラスの結束力、絆は確実に高まってきました。この成果を様々な教育活動に生かしながら、学年末の仕上げをしていきたいと思っています。



< 一斉とびに挑戦 >

< 8の字とびに挑戦 >

<一斉とびの部> (全校) ※2分間の合計回数

全校優勝：6A (371回) 全校準優勝：6C (370回) 全校第3位：6B (358回)
学年優勝：1B 2B 3B 4C 5C 6A 特別賞：ひかり・こだま学級 2A 3D

<8の字跳びの部> (5・6年生有志) ※3分間の合計回数

優勝：「鳥の如く」チーム、「寝グセと愉快的仲間たち」チーム (283回)
第3位：「しもしも?神ってる」チーム (275回) 特別賞：「クセがすごい」チーム

長なわとびの次は、**持久走!** 全員が一斉にグラウンドを走っています



(熱心に指導を受ける子どもたち)

～ 日本伝統の和楽器「箏」に親しむ ～ (5年生)

箏奏者の達人6名をお招きして、5年生が日本の伝統楽器「箏」の演奏を聴いたり、指導を受けたりしました。箏に始めて触れた児童が多く、講師に丁寧に教えていただきながら、興味深く弦を弾いたり、箏の奏でる音色を楽しんだりしていました。また、「春の海」の生演奏にみんな聞き入っていました。

「ダイヤモンド折り紙」をご存じですか?



笠岡市内在住の藤井さんから、毎年小学校を卒業生する6年生に、ダイヤモンド折り紙がプレゼントされています。保護者のみなさんの中にも、このダイヤモンド折り紙をいただいた記憶のある人もおられることと思います。

藤井さんは、およそ30年前に病気がもとで足と左手が不自由になり、リハビリを兼ねて折り紙を始められました。ダイヤモンド折り紙は、12枚の折り紙を組み合わせて作っていますが、初めのうちは1枚を折るのに、一年半もかかったそうです。そして、12枚組み合わせたダイヤモンド折り紙が完成するまでには、さらに一年を要したそうです。折り紙を折ったり組み合わせたりするときは、顎や頬、衣服の折り目などを巧みに使いながら、ほとんど右手だけで折られています。毎日ご努力を重ねられ、今では約1時間で一つのダイヤモンド折り紙を完成するまでになられています。

そして、完成したダイヤモンド折り紙を地元の小学校に届けられるようになりました。平成4年からは、笠岡市内と里庄町のすべての小学6年生に、卒業祝いとしてプレゼントされています。東日本大震災で甚大な損害を受けた宮城県南三陸町の小・中学校へも届けられ、被災した子どもたちを励まされています。

このダイヤモンド折り紙には、「子どもたち一人一人はかけがえのない存在であり、ダイヤモンドのようにいつまでも輝いてほしい。」という願いが込められています。

ダイヤモンド折り紙を受け取った本校の6年生児童が書いたお礼の手紙を紹介します。

< Aさんのお礼の手紙 >

すてきなダイヤモンド折り紙をいただきありがとうございました。担任の先生から、藤井さんのお話を聞きました。藤井さんのお話を聞いているとき、あきらめないで前を向けば周りの人を笑顔にできたり、勇気を届けられたりすると思いました。藤井さんの行動は、私たちの未来にすぐ役立つと思います。もし、私が、つまずくことがあったら、藤井さんからもらったダイヤモンド折り紙や藤井さんの生き方を思い出して、周りにいる友達と助け合っていきたいと思いました。今、家に藤井さんからいただいたダイヤモンド折り紙を飾っています。ダイヤモンド折り紙を見るたびに、明日もがんばろうと思います。藤井さんみたいに前を向いて生きていこうと思いました。

子どもの心が育っていることに感動した担任からこの手紙を読ませてもらい、私も感銘を受けました。